

小樽ゆねすこ



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



小樽ユネスコ協会

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

(ユネスコ憲章前文より)

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

あなたもユネスコ活動に参加しませんか？

- ・いつでも入会できます。
- ・年会費 4,000円 (正会員)
5,000円 (維持会員)
10,000円 (賛助会員)
- ・ホームページ
<http://www.unesco.jp/otaru/>
e-mail: otaru@unesco.or.jp
- ・問い合わせ TEL 54-2075 安達



ユネスコ・スクール

小樽ユネスコ協会会長 丸田謙二郎



ユネスコ・スクールは、1953年に発足した「ユネスコ協同学校ネットワーク事業」に由来します。ユネスコの理想を具現化し、平和や国際的な連携を学校での実践を通して促進することを目的として設けられました。

世界中の学校と、生徒間や教師間で交流し、情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に対処できるような新しい教育内容や手法の開発・発展を目指しています。今や、世界約180か国に約9,000校、日本国内では約550校、北海道では36校の幼稚園、小・中・高校・大学等が登録、参加しています。奈良市、金沢市、気仙沼市などでは全市を挙げて活動しています。

ユネスコ・スクールは、2007年ユネスコ総会で採択された「持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development)」として明確になりました。

推進の学習テーマは、①地球規模の問題に対処する国連システムの理解 ②人権、民主主義の理解と促進 ③異文化理解 ④環境教育などです。これらは、日本でも2008年幼・小・中学校学習要領案に示され、教育内容に盛り込まれたのです。

学校教育では、従来は教科を中心に据えて行われてきましたが、それに加えて総合学習を、「一人一人が、世界の人々と将来世代また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」と定義。つまり持続可能な開発を通じて、すべての人々が安心して暮らせる未来へ向けた取り組みに必要な力や考え方を学び育むことであり、このことは、学校では小・中・高・大と、どの場面でも教科横断的ないわゆる総合学習が重要であり、今後更に広く行き渡っていくべきものであらうと考えます。

ユネスコ

国際交流の集い

国際交流副委員長 外園 知代

七月二十一日(土)午後二〜四時、小樽市公会堂一号室において、「英語で世界を知ろう!」と題した国際交流事業を開催しました。

小樽市内の中学生・高校生を中心に三十一名の参加があり、アメリカ、フランス、ロシア、中国、ニュージーランドの留学生やオーストラリア人の英語教師と共に楽しいひとときを過ごすことができました。

参加者全員の自己紹介のあと行われた英語のクロスワード・パズルでは、デイヴィド・ジェンキンス先生からの短いヒントをもとに、皆張り切って、英単語を口にしながら、マス目を埋めていました。

NZからの小樽商大留学生イベツト・シヨウさんの「旅行に持っていく物」というゲームは、「タオル」「タオル、水筒。」のように、前の人の言った物を覚え、新しい物を付け足していくというルールで、参加者達は英語の発音に気を付けながら、真剣に取り組んでいました。

途中で、お菓子とジュースのフリッシュタイム!

最初は緊張した面持ちだった日本の女子中学生達とフランス人男子留学生達が、片言の日本語と英語を交えながら日本のアニメについて会話する画面も見受けられました。

最後は、日本の「犬棒カルタ」外国の人達も日本語のカルタ取りに奮闘し、異文化体験をしてもらいました。カルタには、「ヨシのずいから天井のぞく」や「早起きは三文の徳」など、今日使われていない言葉を用いた諺があり、日本の子供達のためにもなったと思います。やはり、漢字文化の中国人留学生が優勝し、賞品にカルタセットをプレゼントされ、とても喜んでいました。

このように小樽の子供達が外国の人達と交流することは、将来、国際感覚を身につけるのに大いに役立つのではないのでしょうか。最後に、参加者全員で集合写真を撮影し散会しました。



ユネスコ

世界文庫

昭和四十九年開設当初は、会員の蔵書の持ち寄りで寄贈を始めた市立小樽図書館「ユネスコ世界文庫」でしたが、現在は、コアクシオン等で得た資金から、少額ながら新刊書の寄贈を続けております。

今年度は、次のような図書十二冊(二万円相当)を加え、累計は一七五六冊となりました。

市民の皆様は大いに読んでいただけることを期待しています。

▽世界では日本はこんなふうになっていますよ!

▽この社会で戦う君に「知の世界地図」をあげよう

▽言葉が違えば世界も違って見えるわけ

▽20代の挫折が人生に奇跡を起こす

▽ローマ法王に米を食べさせた男

▽サハリンに残された日本語権太方言

▽ワーキングホリデー完ペキガイド

▽『史記』と日本人

▽何の為に働くのか

▽コンビニと日本人

▽オツな日本語

▽歴史のおしえ



第二回小学生のための英語教室 「ユネスコ・イングリッシュデイ」を終えて

英語委員会委員長 吉田道夫



かねてから懸案であった小学生のための英語教室「ユネスコ・イングリッシュデイ」は、八月三日、一日日程で小樽市教育委員会を会場に実施いたしました。

初めての試みでしたので、学習内容・程度・参加対象・当日の進め方など模索を続け準備を重ねました。市教委指導室とも話し合いを持ち、市内数校の英語学習の実態も聞き取りつつ学習計画を立てました。

参加対象を四年生から六年生とし、募集したところ十七名の申し込みがあり、四グループに分けて指導者を二名ずつ配置（外国人講師と日本人

講師）、グループ学習を主体として全体指導を二・三回設けて一日のスケジュールを組み立てました。

この講座の目的は、国際的視野を持った人材の育成のため、国際語である英語を学ぶ大切さと楽しさを伝えることであり、「英語に親しみ英語を楽しもう」というのが主眼でした。

まず開講式、オリエンテーションに始まり、その後、やさしい英語の歌をうたうことからスタートしました。計画としては良かったのですが、英語を使うことにこだわり過ぎたせいか私達講師にも堅さがあり、子ども達の緊張感をほぐすところまでいかなかったという反省点があります。

その後は、四グループに分かれての活動、英語の挨拶に始まり自己紹介の仕方などを学び、実際に相手と対面して会話する練習をしたグループもありました。

約四十分の昼食休憩時、初対面だった子ども達も少しずつ打ちとけて談笑し、午後からは全体で歌とゲームを楽しみました。

会話については、参考テキストの例に従い、悪戦苦闘しながらもネイティブの発音モデルに続けて繰返し練習していました。

次の「外国の様子を知ろう」のコー

ユネスコ・イングリッシュデイ

英語委員会副委員長 外園知代

当日私は、ユージーランド人のALT（英語指導助手）のマイケル・ロバーツ氏とイタリア人の女子留学生エリザベッタ・ボルゲルさんと一緒にAグループを担当しました。

女の子2人と男の子2人のグループです。最初は、みんなとても恥ずかしがって声を出してくれませんでした。立ち上がり、ゲームのように順番に質問、答えを練習していくうちに声が出てきてホッとしました。

学校の教室では、先生から生徒（児童）に、一方的に発信する形態の授業が多いのですが、このようにロールプレイングゲームの形式で楽しみながら何度も発声す

るチャンスを得られるのは、少数の「学びの場」ならではのメリットだと思いました。

英語の歌をみんなで歌うのもとても楽しく、文字優先の教科書よりもすんなりと「英語の世界」に入れることと得心しました。

場所を体育館に移してからは、グループ内の連帯感も生まれ、グループ毎にポイントを競い合うゲームも白熱していきました。

ゲームでリラックスした後は、自己紹介も滑らかになり、名前だけでなく、好きな食べ物やスポーツなどもスラスラ言えるようになりました。

私達が子供の頃は、ネイティブの発音はラジオを通してだけでしたが、小学生のうちから「生きた英語」に接する事の出来る今の子ども達を少し羨ましく感じました。

いは間違っていないかと確信しました。

子ども達との触れ合いや進め方を工夫すれば、今後更に発展的に実施していくことができるであろうと思います。

次年度以降、より良いものとしていくには、日程・会場・内容・費用等を検討し、指導者の智慧を結集して実施経験の蓄積を生かしていきたいものです。

ナーでは、外国人講師から、オーストラリア・ベネゼエラ・ニュージランドそれぞれの国のことを話してもらい、イタリア人の女子高生からも英語でイタリアの紹介がありました。子ども達は英語の内容を聞き取ろうと真剣に耳を傾けていました。とにかく初めての事業でしたから、反省点は多々ありましたが、参加した子ども達のアンケートでは、ほぼ全員が「より英語が好きになった」と回答。企画と基本的なプランにつ

第三十八回ユネスコ英語祭

英語委員長 吉田道夫

小樽ユネスコ協会恒例の英語祭は、十一月四日(日)、小樽市公会堂において開催されました。

児童生徒の英語力の向上と、英語に対する興味関心を高めてもらうことをねらいとして実施してまいりましたが、今回三十八回目を数え、期待どおりの成果をあげて終了することができました

参加数は四十四名、各部門の出場者数のバランスがとれていて、参加校は常連校の他四・五校から新しい出場者がいたことは、嬉しい限りでした。

出場者の発表態度や発音・抑揚など表現力にも向上のあとが見られ、これからもぜひ英語学習を楽しんで努力を続けていってほしいと期待しています。

出場者の中で特筆されるのは、七十代後半の女性で、多忙の中を若者に負けずに毎年の発表にチャレンジしており、頭が下がります。

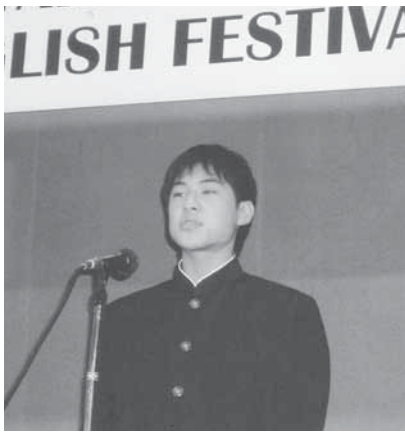
また、スペシャルスピーチは、市教委ALIT(オーストラリア)と小樽商大留学生二名(ニュージーランドとイギリス)に依頼しま

した。内容は各国の様子や小樽での生活などでしたが、聴衆は英語を聞き取ろうと真剣に聞き入っていました。

本年度より、褒賞に、小樽市長賞と教育長賞が加わり、出場者にとつてより一層の励みとなることと、主催者として有難い限りです。

来賓としてご臨席くださった上林猛教育長は、昨年に引き続き英語で開会式のスピーチをして下さり、英語に取り組む意欲と努力を自ら示して大変感動的でした。

次回第三十九回は、二〇一三年十一月三日開催予定で、今回を越えるたくさんの方の参加を期待しております。



2012年度 第38回小樽ユネスコ英語祭特別賞 入賞者

賞名	部門	氏名	学校・学年
小樽ユネスコ会長賞	スピーチ	石神 響	双葉中2年
小樽市長賞	暗唱	菊池 志歩	松ヶ枝中2年
小樽市教育長賞	朗読	東谷 愛子	潮見台小5年
国際ソロプチミスト小樽会長賞	対話・劇	久保田、清野、鈴木、小出、上出、井口	黒松内中
北海道新聞社小樽支社賞	スピーチ	佐藤 百花	銭函中1年
小杉八千代賞	朗読	田中日香里	菁園中2年
STV賞	歌	奥村 木歩	銭函中2年
努力賞	暗唱	金山 大人	黒松内中3年
努力賞	スピーチ	玉城 有彩	双葉中2年
努力賞	暗唱	長沢 萌	松ヶ枝中2年

カレンダーリサイクル市



どれがいいかな?(福祉センター会場)



ユネスコ会員 仕分け作業中

第三回カレンダーリサイクル市

環境委員長 丸田孝子

本年のカレンダーリサイクル市は一月十三・十四日に、小樽市総合福祉センターで、つづいて二十二・二十三日に長崎屋公共ホールで実施しました。

総合福祉センター会場は広く、絵柄付きのカレンダーは、ユネスコ自然遺産などの風景系、アニメ系、歌手やゴルファーなどの人物系、有名な画家や写真家の作品系などと分けたり、文字のみのカレンダーも、文字の太さ、サイズの

大きさなど分けて展示することができました。とにかく、卓上カレンダーや手帳等、量も種類も実に豊富で、一人でも多くの方々にこの機会を活用していただきたいと思いました。

このたぐさんのカレンダーは、「札幌ユネスコ協会が「もったいない」精神で、全国の企業や家庭で廃棄してしまうものを収集して市民に提供しているもので、札幌での販売終了後一部をいただいできたものです。また、この催しを知って届けて下さった小樽市民の方もおりました。

カレンダーリサイクル市に際し、小樽ボランティア活動連絡協議会よりおもちゃライブラリーをはじめ数団体の協力があり、札幌まで

もらい受けに行けたので、これほどたぐさんのカレンダーを提供することができたのです。「もったいない」精神に賛同し、労を惜しまずご協力下さいました方々に厚く御礼を申し上げます。またお買上げ下さった方々、ご寄付下さった方々、そして励ましのお言葉をかけて下さった方々に、改めて感謝申し上げます。

三回目となりますと「昨年も来た」という方もおり、少しずつ市民の方々にご理解が得られていると手応えを感じております。

カレンダーは一年を通してのおつき合い。インテリアとして、生活を充実させるため、また心待ちにしている日を印して希望をつくるなど、やっぱり欲しいこだわりの「マイカレンダー」そのようなカレンダーをぜひ、ユネスコのカレンダーリサイクル市で見つけていただきたいと思います。

「継続は力なり」の言葉どおり、一回目より二回目、二回目より三回目と売上金額も増え、今回は十二万円の収益を得ました。これを、東日本震災ユネスコ子ども基金(奨学金)とユネスコ世界寺子屋運動への寄付、そしてその他のユネスコ活動に使わせていただきます

した。
また残ったカレンダーは、市内の福祉施設等に利用していただき

長崎屋会場

今年も盛況!
理事 田澤真弓

長崎屋一階中央ホールという市民の憩いの場所を快く提供して下さい。小樽駅前ビル株式会社様のご協力のもと、今年は一・二・二十三の両日、第二会場として後半のカレンダーリサイクル市を実施しました。

例年より遅く平日開催というマイナス要因を見事にはねのけ、多くの市民にご来場お買い上げいただきました。

「今年は遅かったね」「やらないのかと思ったヨ」「花の絵は綺麗でいいわ!もっと欲しい」「ペットの絵の可愛いのを探して」「有名な画家の絵柄のを去年買ったから今年も」「寝たきりの主人の部屋に女優さんの写真のカレンダーを掛けてあげたい」「この手帳使いやすそう」「ダイアリー少ないわね。やっぱり早く来ないとなくなるのね」などなど……。みなさん色んなことを口にしながら選んでいます。

こだわりの人達は、皇室物や鉄道など乗り物系を探したり、世界遺産・日本庭園・帆船・スカイツリー、そしてイケメン俳優や水着の女性ものも人気でした。
提供数の僅かな「日めぐり」は、

ましたことを、合わせてご報告致します。

手に入れるのが難しく、今年も三部のみでしたので、買った人は大喜びでした。

このカレンダーを制作するのにいくらかかったのかなと思わせるくらいのもので、二百円です。実に多種多様で見ているだけでも楽しく、一部でも多く廃棄物にならずみなさんの手に渡ります様にと願いながら販売活動をしました。

又、カレンダーはいらないけど募金箱にお金を入れて下さる方や、家でコトコトとためた小銭のピンを、わざわざ届けてくれた方もいて、感謝の気持ち一杯です。

この事業を実施するためには、何といても札幌ユネスコ協会からの品物の提供と、小樽に搬入する大仕事は欠かせません。

今年も小樽ボランティア活動連絡協議会の有志が八名も、搬入や販売に手助けをして下さいました。

おかげでたぐさんのカレンダーを小樽に運ぶことができ、みなさんに提供できたのです。

益金はユネスコ活動の募金に有意義に使用、日本ユネスコ協会連盟に送金しました。

本場に多くの方々のご協力とご厚情を得て成功裏に終了したことを、厚く御礼申し上げます。

大会参加報告

▼第四十六回 北海道ユネスコ大会 in 旭川

(二〇一二年度北海道ブロックユネスコ活動研究会)

・日時及び会場

十月二十・二十一日 旭川グランドホテル

・テーマ ユネスコの今日まで、そして明日から

(次世代へのメッセージ)

心のなかに平和の守りを固めよう」で始まる「ユネスコ会員綱領」唱和、「ユネスコの歌」と一連のセレモニー後、「東日本大震災教育支援」、「カンボジア寺子屋運動の現状報告」。フォーラム「次世代を担う青少年ユネスコ活動」では、小・中・高校での活動野鳥保護、日赤ボランティア活動、国際理解教育実践、カンボジア・スタディツアー報告など。また、大船渡ユネスコ協会会長による「東日本大震災報告」も参加者の注目を集めました。そして、「各地区ユネスコ活動の現状と今後の役割」の中での旭川ユ協の実践「小・中・高校生のユネスコ作文啓発活動」は、我が小樽ユ協でも以前取り上げて実行できなかつた経過があるだけに、大いに参考になりました。

今大会の目玉とも言うべき基調講演は、大変示唆に富む内容でした。講師松浦晃一郎氏は外務省北米局長、外務審議官、駐仏大使など歴任後、一九九九年から二〇〇九年までユネスコ第八代事務局長を務められました。

「二十一世紀におけるユネスコの役割」と題し、

国連及び国連システムのメンバー機関との協力、その中でユネスコの具体的役割を話されました。①武力紛争を未然に防ぐよう努力し、発生したら早期解決、復興再建に協力 ②貧困の除去とそれに伴う基本教育の普及 ③文化の多様性、文化遺産の保持 ④生物の多様性保存 ⑤地球環境問題への対応など。そして、「議論し問題提起するユネスコ」から「行動するユネスコ」として、地球が持続可能な形で存続するよう、各国において持続可能な社会を構築することを奨励し、協力することが肝要であると強調されていました。なお、二〇一三年度の全道大会は、帯広市で十月二十〜二十一日開催の予定です。

(会長 丸田 謙二郎)

ユネスコ全道大会に参加して

学生会員 峰尾 光人

僕は、昨年十月旭川で開催された第四十六回北海道ユネスコ大会に参加しました。この大会は、それまでユネスコについて深く知らなかつた自分にとって大変学びのあるものとなりました。

この大会では、日本ユネスコ協会連盟の活動の進捗報告や前UNESCO事務局長松浦晃一郎氏による講演、各地区の活動報告、また、大船渡ユネスコ協会会長による東日本大震災の報告などがありました。

このプログラムの中で一番印象に残っているのは、やはり前UNESCO事務局長松浦氏による講演であり、「平和のとりでを築く」というユネスコの精神が他団体の活動にも共

通していることから、今ユネスコに求められているのは個々に活動する団体をつなぐことだという話が心に残っています。僕自身、この大会に参加して初めてユネスコの設立経緯やその理念を詳しく知り、平和のため「人の心を豊かにする」という理念に強く共感しました。また、学生や学校関係者の発表では「心を豊かにする」様々な活動を知り、小樽の学校でも特色ある地域活動にもっと力を入れてほしいと思いました。

今回参加して最も感じたのは、教育の重要性です。より良い社会のためには何よりも教育が大切で、それには地域の関与も必要ですが、なかなか難しい点も多いとおもいますが、そんな時に、地域のユネスコが協力してその結節点となることができれば、松浦氏の言うこれからのユネスコの役割を果たせるのではないのでしょうか。小樽ユ協でもそのような活動ができれば良いなあと思いました。

あとがき

小樽ユ協二〇一二年度の活動をまとめた会報「ゆねすこ」

毎号同じパターンながら、平易な文章と読み易さを心懸けて編集しました。ご一読いただけると幸いです。

広報委員会

田澤 真弓
安達久美子

2013年3月31日発行

小樽ユネスコ協会

事務局 小樽市花園5-10-1

小樽市教育委員会 生涯学習課内